

同志社大学通信

ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION

特集／現場から見た「美術」論
同志社人訪問／日本キリスト教協議会の総幹事に聞く

No.120

1999 OCTOBER

DOSHISHA UNIVERSITY



COVER STORY

〔表紙の人たち〕



キャンパスで談笑する二人は、南川亜由美さん(工学研究科博士課程(前期)2年次生)とヴァンサン・モーコール(Vincent Maucorps)さん。小柄な南川さんは、フランス、リール中央学院での一年間の留学生生活を終え、この六月に帰国した。片や大柄なモーコールさんは、昨秋にリール中央学院から本学工学研究科に学び、今秋フランスに帰国。Double Degree制度を利用して、日仏両校での研究活動を終えた二人は、田辺キャンパスではじめて顔を合わせた。友人を介してお互いのことを知っていたこともあって、日仏の生活や文化の違い、留学中の出来事などについて、まるで旧知のように話がはずむ。とくに勉強や仕事のスタイルにおいては、時間を有効に使い集中的にこなしていくフランス流がいいという点で意見が一致した。
(本誌12ページに関連記事を掲載)

C O N T E N T S

特集

もっと芸術に親しむために

現場から見た 「美術」論

2

キャンパスニュース 1

7



同志社人訪問●大津 健一さん

日本キリスト教協議会の
総幹事に聞く

9

留学生の眼●南川亜由美さん、ヴァンサン・モーコールさん

日仏の新しいかけ橋

12

1998年度大学決算について

13

ゼミ・ゼミ おじゃまします●経済学部：馬場 浩也ゼミ

同大生の生活白書

ーバイト・クラブ・恋愛 VS 学業ー

15

キャンパスニュース 2

18

ONE PURPOSE コメンタリー

21

先生の推薦する VIDEO & BOOK

23

私と「仕事」

25

現場から見た「美術」論



重要文化財 椿椿山筆《1840年の書画会》『小集図録』より（愛知県田原町蔵）



NEESIMA ROOMにて

岸■美術論ということで、タイトルを見た読者はさうと小難しい議論を予想されるでしょうが、気軽な話題から入ってみたいと思います。まずお二人の自己紹介からお聞かせいただきましょうか？

佐藤■文学研究科美学および芸術学専攻博士課程（後期）で、幕末・明治の日本美術史を研究しています。そのかたわら、家業である旅館の仕事に従事しています。装飾のための道具として美術品や骨董品に接しています。

杉崎■私は学部に入ったときから文化史学専攻で、博士課程（後期）に進んだ夏に公募があり、当時開館準備中であつた細見美術館の

美術館へ行ったら、まず
解説を読み、ガイドの声に
耳を傾けてみよう。

秋といえば芸術、単純だけれど、この連想は、私たちの感性にびつたりとくる。読書を楽しんだり、美術館へ出かけて名画を鑑賞すると、何となく高尚な気分になり、自分が高みに導かれたような境地になる。こうした境地こそ、芸術の効能としてよく語られるところであろう。しかし、同時にこうした芸術観が、私たちを芸術や美術から遠ざけている要因になっているとしたらどうだろう。今回の特集は、美術史や文化史を研究するかたわら、仕事においても美術品に接しているお二人に登場いただき、岸 文和文学部教授とともに少し違った視点から美術や美術品について語っていただいた。



佐藤 守弘さん

文学研究科美学および芸術学専攻博士課程(後期)3年次生。実家は京都で300年の歴史を誇る俵屋旅館。コロンビア大学時代に出会った泥絵を中心に、幕末・明治の美術史を研究している。父は、米国「ライフ」誌の専属カメラマンとして知られたアーネスト・サトウ氏。



杉崎 貴英さん

97年文学研究科文化史学専攻博士課程(前期)修了。日本・東洋古美術のコレクター細見氏のコレクションを展示する細見美術館に、学芸員として勤務。平安・鎌倉時代の仏像彫刻と仏師について研究してきたが、現在は、仏教美術とそれを巡る人々という視点で、もう少し幅を広げて考えてみたいという。

学芸員となりました。

岸 ■学芸員といえば、美術に関心を持つ人にとつては憧れの存在ですね。

杉崎 ■細見美術館は、昨年三月にオープンした比較的新しい美術館なんです。過去七回の特別展覧会を開催しています。そのうち私は仏教美術を中心に三回ほど展示を担当しました。美術館が所蔵する作品は、時代もバラバラ、ジャンルもバラバラですから、それらの中から展示品を選びながら、ストーリーを創っていくのは、やはり楽しいし、やり甲斐のあるものですね。

佐藤 ■似ているといっているのかな、私の場合も客室の装飾やしつらえのために、床の間の掛け軸や道具などを毎月変えるようにしています。たとえば江戸初期の茶会記を読んでいると毎月変えるというような事はなかったようですが、お客様に四季を感じていただくために変えています。手持ちの道具の中から適切なものを選んで、季節を物語るといってわけです。まあ、何も軸を見て四季を感じなくても、外に出ればいいわけですが。

岸 ■佐藤さんの旅館は、ちょっと特殊ですね。由緒があるということもあって外国からのお客様が多い。

佐藤 ■そうですね。ですから、軸やしつらい

の由来を解説するのが大変です。それで私がアンチョコのようなものを作り、お部屋におくようにしました。以前は「客室の掛け軸に書かれた字は、何って読むのしょう」とって問い合わせの電話を夜中にももらったりしたものでした。だからといって、こちらからくつろいでいらっしゃるお部屋に押しかけて、いちいち掛け軸の説明をするのもお客様にとっては迷惑な話です……。

杉崎 ■美術館だとキャプションとか、解説がついてきますね。また、うちの館ではボイスガイドの貸し出しも行っています。そうしておくと入館者の反応も違うんです。解説があればやはり読みますし、ボイスガイドがあれば、最後まで聴いていくから注目度が違う。

佐藤 ■私は、今でこそ美術史を研究していますが、美術にとりわけ強い関心を抱いていたわけじゃない。美術館へ行くにしても、名画でも鑑賞して教養を高めようなんて軽い気持ちで出かけていました。すると名画を前



地獄絵の絵解き光景。(山東京伝『近世奇跡考』より転載)



司会 岸 文和 文学部教授

「素人」の説明だから、逆の意味ですごく分かりやすかった。

岸 ■ 「聖と隠者」という展覧会でもやってました。私もその道の専門家といっしょに行っただんですが、彼は口もはさまずじつとその解説に聞き入っていましたね。いい勉強になったんじゃないかな(笑)。

佐藤 ■ アメリカでフランク・ロイド・ライトのスタジオを訪れた時ですが、やはりギャラリートークを近所のおばさんやシカゴあたりから来た学生がやっているんです。しかし、解説もなかなか達者だし、質問への受け答えもしつかりしているんです。そうしたコミュニケーションを通じて、観客の作品への理解も深まっていくなですね。

杉崎 ■ そうですね、言葉を介してイメージが生まれてくるし、印象が定着していくんだと思います。以前、富山の城端別院善徳寺に「虫干法要」を見に行ったことがありました。蓮如上人の生涯を描いた掛軸の絵解きなのですが、それこそ説話だらけ。蓮如の生涯を物語にして浄土真宗の普及が語られていくわけですが、聞いているうちに蓮如の実在感がだんだんと高まってくるんです。絵画と人々をつなぐ絵解きは、見方を変えれば、ギャラリートークに似ているかもしれない。

佐藤 ■ そういう意味では、現代の観光や美術ガイドも同じじゃないでしょうか。京都の観光タクシーなどは、実に上手に説話を交えて歴史を語りますよ。

岸 ■ 語り方は沢山ある。山ほどあるといつてもいいかもしれません。そんな中で、江戸時代ならどんな風に語っていたんだろうと考えたりしていると、美術史の方法論がわずらわしく思えたりもする。結局、面白ければいいんじゃないかと。ちょっと言い過ぎかな(笑)。

「何を、どのように描こうとしているのか？」

「なぜ、そのように描こうとしているのか？」

「なぜ、そのように描こうとしているのか？」

岸 ■ 佐藤さんは、美術はあまり好きじゃなかったといいましたね。なのに今は美術史しかも極めて特殊な泥絵というものにスポットをあてて研究している。

佐藤 ■ 回り回ってというか、最初の関心事は歴史だったんですね。歴史を学ぶうちに民衆宗教に惹かれるようになり、大津絵や参詣マンダラなど、信仰とあいまった視覚イメージに出会った。街道沿いの土産物として作られていた絵で、とても面白い。後にそれに「心学」という通俗道徳的な訓話が添えられていくんです。一方、中世の参詣マンダラは、霊場のガイドマップのようなものですが、これがさまざまに姿を変え、地方の寺院信仰や仏教美術の手引書のようになっています。

岸 ■ 泥絵にしても、参詣マンダラにしてもい



《内藤能登守上屋敷》(日本美術館企画協議会刊『江戸の泥絵展』より転載)

わゆる「美しい」ものじゃあないですね。「美術」というより、やはり「視覚イメージ」と呼ぶ方がふさわしい。

佐藤 ■ そうですね。しかし、当時の民衆文化を背景において考えるととても面白い。江戸時代の人々の生活というのは、現代の私たちが考える以上に行動範囲が広く、お伊勢参りのついでに四国や九州あたりにまで足を延ばしている。かと言って、全ての人が旅行に出かけられるとは限らない。大きな神社などの勧進聖は地方を回り、寄付金を募ったりするわけなのですが、そのような時に参詣マンダラを持っていく。そして聖の解説付きでマンダラを見た人は、その神社に行くのと同じことになる。つまりは一種の代償行為ですね。泥絵も似たような背景を持っています。描



《絵因果経断簡》鎌倉時代（細見美術館蔵）

かれていますのは、江戸の風景というか景観です。人物も描かれてはいませんが、歌川広重の風景画とはまったく違います。人物はごく小さく描かれ、あくまで江戸の町の姿、それも武家屋敷が中心です。どうも

参勤交代で江戸暮らしをした下級武士が、江戸の土産として持ち帰っていたらしい。なぜか決まって空が空間の半分を占めていて、不思議な印象を与えます。おそろく故郷に帰って「俺が勤務して

いた江戸は、こんなに広大で素晴らしいところなんだぞ」と自慢したかったんでしょうね。岸■美術を鑑賞する場合は、様式に着目するというのが定石になっていますね。

杉崎■確かに色と形という作品を形成する基本的なファクターに着目するのは大切なことだと思います。しかし、佐藤さんがお話しになったように絵が描かれた背景にまでさかのぼって考えると、作品が立体的に見えてくるように思いますね。

佐藤■「なぜ、どのような情報を伝達するために、そのように描かれているか」という視点で捉えることが大切だと思います。そうした視点で捉えようと、泥絵において空間の半分も占めている空の意味をいろんな風に推察できて楽しい。

岸■絵の読み方ということでは、少なくとも近世までの日本の絵画の場合、右から左へ見ていきますね。絵巻物なんかまさにそうです。これは日本の言葉が右から左へ書かれるからで、西洋絵画になると目の動きは逆に

左から右へ流れていることになります。ところが戦後は日本語も横書きが多くなって、両方の見方が混在するようになった。

佐藤■右から見るか、左から見るかで、やはり絵の意味は変わってきますね。画面上を左へ向かって歩いている人物は、西洋絵画のようには左から見ると「来る」ですが、日本の場合は「行く」ことになります。面白い話がありますね。もちろん日本の漫画は右綴りで、縦書きです。これを英語版にするときどうするかといえば、裏焼きして吹き出しだけ、英語の横書きに差し替えるのだそうです。よく見ると英語版の日本の漫画に出てくる人物はみんな左利きらしいですよ(笑)。

岸■美術館でいえば、まず入り口から入り、右の壁から見ていくのか、左の壁から見ていくのかが問題になりますね。

杉崎■日本の絵画と西洋絵画の場合では、見る順路が変わってきますよね。個々の作品については、キャプションのある方から見ていただくようにもティンクされているはずですよ。佐藤■美術館の展示というのは、美術品が本来置かれるべき高さに置かれているわけじゃないですよ。ガラスケースに収まると、屏風なんかも本来よりも高い所に位置することになる。

杉崎■本来の高さよりも、入館者に見やすい高さということだと思います。お客様は座位で見るわけじゃなくて、立って見るわけですよ。屏風について逆に佐藤さんに伺いたいのですが、屏風には元来折られることを前提に描かれているものがありますよね。だから展示も折った状態で展示すべきものなんでは

ようか？

佐藤■屏風は、空間の形状に合わせてちとできる自由度の高いものです。折ってもいいし、平らに広げてもいい。うちの旅館でも廊下に置く場合は、広げて置いています。屏風押さえという道具があるくらいですから、昔もそうした使い方をしていたのだと思います。



《男女遊楽図屏風》江戸前期（細見美術館蔵）



「美術」の定義の幅を

広げてみると、

もっと身近に感じられるはずだ。

佐藤 ■ 制度的なものもあるんでしょうけど、日本の美術館というのはなぜか堅苦しいですね。以前、美術館で妻と語らいながら絵を鑑賞していたら「静かにしてください」としかられてしまいました。

岸 ■ 警備の人に？

佐藤 ■ いいえ、来館者です。それって違うと思うんですね。もっと楽しく、美術・芸術を身近に感じたいと思う。アメリカのメトロポリタン美術館なんか、子供たちがいっぱいいてかといつて騒がしいという雰囲気でもない。ミュージアム・シヨプなんかも気が利いていて楽しいですよ。日本の美術館はそうした客を呼べる企画にも乏しいし、人を寄せつけない雰囲気を感じ出しているように感じます。

岸 ■ 江戸時代は、お寺や神社に絵馬堂があり、虫干しがあり、開帳や出開帳があつて現在の美術館のような役割を担っていました。それに絵師や書家呼んで展示即売を行う書画会もあり、幕末あたりには広く田舎にまで浸透していたようですね。しかも、しばしば酒食付きで…。

杉崎 ■ そういう意味では現在の美術館もいろいろと考えています。まずお客様に来ていただかないといけませんから、いろいろな企画もしていますし、工夫もしています。CDROMを制作したり、ホームページを開設しているところも随分増えています。

佐藤 ■ 日本の美術館の所蔵品って、面白いも

のがいっぱいあるじゃないですか。以前ゼミ旅行で行った四国の琴平宝物殿には、なんと人魚のミイラが展示されていた。猿と魚をくっつけた物なんですけど、聞くと明治時代にはれっきとした輸出品だったそうです。

杉崎 ■ 東京国立博物館が行った目で見ると二〇年展でも、聖徳太子の足跡あしあとというのが展示されていた。コレクションという意味では、これなんか秀逸だと思えますね(笑)。面白い美術館というのはいっぱいあります。東京の渋谷区立松濤美術館も空間からユークで、展示室の一つが喫茶室になっていました。私も展示室という表示が出ていたので入ってみると、みんなくつろいでコーヒを飲んでいるんですね。あれ、間違つたかなと出直したんですが、やっぱり合っていました。よく見ると壁に作品が掲げられていました。そのときの展示のテーマが「地獄絵」だった。



「カフェ・ミュゼ」夜景 (細見美術館)

岸 ■ 間魔さんの前で、みんなコーヒを飲んでいたので(笑)。

佐藤 ■ 美術館に展示されているものって、茶器や掛け軸だったり、かつては道具として使われていたわけですね。絵画にしても、何かの目的をもって描かれた。それが装飾であつたり、宗教的目的だったりするわけですけど…。そう考えると、今私たちが目にしているポスターや漫画なんかも、将来は美術館にもっと展示されることになるのかもしれない。昔、壁に貼られていたポスターが額に入れて飾られるようになり、やがて美術館に収まるという風に。

杉崎 ■ 美術館というのはそういう時代の流れの終点に位置づけられますね。だから、美術館が逆の流れを起こすこともできるので、はないかと思えます。

岸 ■ 美術を鑑賞する場として美術館はあるわけだけれど、美術イコール美術館の展示物というわけではない。私たちの回りを見ればポスターや筆箱のプリントも、日常目に見えるイメージもまた美的なものとして存在し得る。また逆に歴史的な美術品といえども、つねに美しいだけではなくて、さまざまな情報を伝達するメディアとしての働きを持つていたと思うのです。ことさら美術だ、芸術だと称揚して非日常性の中に押し込めず、もっと身近に接していきたいものです。今日はどうもありがとうございました。

CAMPUS NEWS 1

CAMPUS NEWS ●●●

学生がプロデュースした 「水曜チャペル・アワー」

辻村 佳子さん

【神学研究科博士課程(前期)】 1年次生

私たちは、この度「学生による礼拝」ということで、6月30日の水曜チャペル・アワーを全て、自分たちでプロデュースすることを許されました。約1カ月という短い間、まるで超高速のジェット機に飛び乗った気分でした。時には乱気流に巻き込まれ、時にはエンジンが止りそうになったこともありましたが、6月30日には、そのジェット機は「わたしたちらしい」ロケットになって無事にはばたくことができました。

今回、「わたしたちらしく…」ということで取り組んできたわけですが、それは、礼拝をプロデュースしてきた私たちも、そして共に礼拝を守ることができた人たちも、「神さまによって生かされている私たちが、自分らしく生きる」ことを願ってこのようなタイトルにしました。神さまは「ありのままのあなたって、ホントにステキだよ」といつも私たちのことを愛して下さいます。自分らしく、自分の出来ることを、自分のペースでやっていく…神さまはいつでも一緒です。



CAMPUS NEWS ●●●

神学部・関谷ゼミで、 ゼミ生の自作・自演による 音楽CDを制作。

『One Purpose』NO.116で紹介した神学部関谷直人専任講師の「キリスト教文化学演習 5」では、昨年プロモーション・ビデオの制作に続き、今年は音楽CDの制作に挑戦した。キリスト教とメディアの関わりや歴史を学ぶ一環として、現在という時代を背負ったゼミ生たちならどんなメッセージを発信できるのか、実際のメディア制作で考えてみようというもの。関谷先生の助言を得ながらも、作詞、作曲からレコーディング、CDジャケットのデザインまで、ゼミ生たちが各班に分かれ、役割を分担しながら完成を目指した。収録曲『例えばこんな自分に』の作詞を担当した中井誠一さん（3年次生）は「音楽とはまったく無縁の僕が、作詞をするなんて考えてもみなかった」と、自分の詞が歌になり、CDになっていく様子を感じ深げに見守る。関谷先生は「ゼミ生たちが今抱えている問題意識をメッセージにしています。だから曲づくりもフォーク調、ポップス調のコンテンポラリーなものが中心です」と満足気。各人がができる範囲で役割を決めているそうだが、ミキシングなどに思わぬ人材がいて順調な仕上がりをを見せていた。



CAMPUS NEWS ●●●

同志社リーダークラッツ 熊本の地で演奏会を開催。

佐々木 上さん

【商学部】3年次生 同志社リーダークラッツ内政

四本のネオン管で形どられた十字架は祭壇の上部にあって、緑色の光を有しておりました。二階席の左手から射し込む微かな陽光と、祭壇の後ろの壁に備え付けられた燭光の薄黄色とが、仄暗い講堂をなおさら、静謐にする様子でした。

8月6～8日の日程で熊本バンド発祥の地での演奏旅行を企画し、かつて伝道の場所として創設された熊本草葉町教会に赴き、一夜の演奏会を開催した我々、同志社リーダークラッツの面々は、それぞれに熊本と同志社との所縁を再認識することになりました。その昔に、新たな向学への野望と、究極的な奉教の心を携えて同志社英学校になだれ込んだ、熊本バンドの一行の道程を遡るようにして熊本を目指した我々は、市内の彼方此方に息づく熊本洋学校の、精神の波濤を垣間見る思いがしました。

讃美歌集と聖書が交互に並べられた本棚は一階席の左手、丁度採光窓の真下にあって薄暗く、その一角の陰影には何かしら神秘的な茫洋がありました。夕方から行われた演奏会では、一曲を演奏し終わる毎に、窓から射す日光が薄れてゆき、やがて暗やみのなかに聴衆の輪郭線だけが浮かび上がって見えました。

この演奏旅行では、各方面の方々から御支援を頂きました。心より感謝いたします。



熊本県民テレビ生出演の様子

CAMPUS NEWS ●●●

ディヴィス記念館にて 「BB JAM Junior大会」を 開催。



「BB JAM Junior 1st.」(第一回近畿地区女子中学生バスケットボール交歓大会)が、去る8月28日、田辺キャンパス「ディヴィス記念館」で開催され

た。同大会は、本学大学院生、原田禎夫さん(経済学研究科博士課程(前期)2年次生)が中心となり、インターネットを通じて開催を呼びかけたもので、京都地区6チーム、大阪地区4チームが参加、午前9時30分より熱戦を繰り広げた。実行委員長の原田さんは、教育実習を機に同志社中学校のバスケットボール部でコーチに就き現在は烏丸中学校にてコーチを続けている。開催を思いついた動機を「バスケットボールの振興はもちろんですが、引退した3年生、部員が足りなくて競技会に出場できないチームなどにバスケットボールを楽しむ機会を提供したかった」と語る。言葉を裏付けるように部員が足りず新人戦に出られないチームや、小学校時代のミニバスケットボールの仲間、公式戦に参加できないクラブチームなどが参加。オフィシャルも選手たちが交互に務め、審判員はバスケットボール関係者がボランティアで支える手づくりの大会になっている。原田さんは「男子中学生はもちろん、高校生や小学生チームにも参加を呼びかけていきたい」と今後の抱負を話してくれた。



[大会結果はインターネットでご覧になれます。]

<http://www.geocities.co.jp/Collosum/9205/BBJAM/top.html>

田本キリスト教協議会の 総幹事に聞く

高橋●大津さんが総幹事をなさっている日本キリスト教協議会とはそもそもどのような団体なのでしょう。

大津●日本キリスト教協議会(NCC)は日本の主だったプロテスタント系教団、団体など三十三が加盟して、一九四八年に発足しました。互いにゆるやかな連携をとりながら、共通の課題について話し合っています。部落

差別問題や在日外国人の人権問題などについて取り組んでいて、最近は国旗・国歌の法制化問題などについても話し合い、一致できる点についてはいっしょに行動をとるようにしています。私たちは様々なつなぎの役割を果たしていて、先ほどの新ガイドライン関連法反対の集会においては五万人の集会を実現させました。また人権や平和というテーマにおいては、日本の教会だけでなく、世界や

アジアの教会とも協議していますし、難民問題や緊急支援などについて世界の教会と絶えず情報を交換し合っています。

高橋●世界のキリスト教協議会との関係は？

大津●それぞれ役割がありまして世界の問題については世界教会協議会WCCがアジアについてはアジアキリスト教協議会CCAが活動しています。私たちは、問題によってこうした世界の団体と連絡をとりながら活動をしており、最貧国の債務帳消しを求める「ジュベリー二〇〇〇」の運動においては、世界の教会を含め、NGOの方々とも協力しながら国際政治を動かそうとしています。

大津 健一さん

【1969年

神学研究科修士課程修了】

1943年、大阪市生まれ。同志社大学神学部3年次から一年間休学。福岡県筑豊で炭坑労働者、土木作業員として働く。大学院修了後、再び筑豊へ。閉山炭坑で働きながら伝道を試みる。その後日本キリスト教団倉敷教会伝道師、米国留学を経て、西陣市民センター館長などを務め、1986年からアジアキリスト教協議会幹事として活躍。アジアの人権や保健、難民、障害者問題に取り組み、94年から日本キリスト教協議会総幹事。

高橋●そうした運動は、最近になって盛り上がってきたわけですか？

大津●いいえ、キリスト教が根付いている国では歴史的に連綿と続けられてきた運動で



す。しかし、日本においては教会も小さく、信者の数も多くないので、私たちキリスト教はマイノリティに過ぎません。ただ世界的なネットワークという面ではどの団体にも負けないくらいの力を持っていて、昨年も韓国の金大中大統領が訪日された際はNCCの代表として迎賓館に招かれています。韓国民主化運動の支援において私たちNCCは中心的な役割を果たしてきたし、金大統領もそのことをよくご存知だったのですね。

高橋●社会的、政治的な活動をひとつの手段として、自分たちの考え方をほつきりさせていこうとされているのですね。

大津●日本という国にあって、今問われている問題について自分たちなりの答えを出しているのはとても大切な事だと考えています。「日の丸」「君が代」の法制化についていえば、私たちははっきり反対です。ですから国会議員会館に出向いて議員にNCCとしての主張を伝えますし、国会に数人いらっしやる



リスチャン議員の方とも連絡を取っています。高橋●話はどうしてしましますが、なぜ教会、教派をつなぐ役割が必要とされているのでしょうか？

大津●ひとつひとつをとれば私たちは小さな群れに過ぎません。しかし、日本の社会の中で何かを発言しようとすれば、やはり声を出していかないとはいけません。だとすれば、共通の問題に関し一致できる点があれば、声を合せていっしょに行動していこうじゃないかというのが出発点ですね。それともひとつ、海外の教会から日本の教会に語りかけたという場合も、窓口が多くてどこを話をしていいかわからないケースも出てくるわけですね。そうした場合に私たちNCCが窓口になり、メンバーである教会や団体についていく役割を果たしています。

高橋●当然、意見の違いもでてきますよね。大津●たとえば「日の丸」「君が代」の問題にしても厳密に言えば微妙に考え方は違うわけですが、話し合いを通して協力できる点を見出して手をつないでいこうというのが私たちの考え方です。同じキリストを信じながら未だ一致するに至っていませんが、カトリック教会との関係についても、WCCとパチカが話し合って合意した祈禱文を使って守る



一致祈禱会や対話集会を通して、理解を深めようとしています。これは「共に生きる」という二十一世紀のビジョンを示す意味ではとても大切なことだと思えますね。同じ信仰を持つ者が違いを乗り越えて共に生きる社会の姿を示す。あるいは信仰を持つ人も、持たない人も互いを尊重し合える社会でなければ、未来への展望は開けてこないのではないのでしょうか。

高橋●大津さんは、学生時代からそういった考え方を持っていたらいいんですか？

大津●学生時代は筑豊の問題に関わっていました。当時は労働者伝道が活発でして、諸先輩方が釜ヶ崎や労働現場に入って具体的にこの社会の中で信仰を証していこうとなさっていた。私もその影響を受け、同志社の神学部の学生が中心であった「筑豊の子供を守る会」などに関わりながら、現実問題に對峙していこうとしていました。神学の勉強をするその一方で、自分の信仰を是とするなら、自分の信仰が現実社会の中でどれだけ力を持っているのか問うてみたかった。またマルキシズムの影響の色濃い時代でしたから、キリスト教が現実の矛盾にどう応えていけるのか可能性を追求してみたかったのです。そんな課題を背負っていたので、三年生を終えるとそのまま四年生になるのがいたたまれず、大学



を休学して筑豊の閉山炭坑に入りました。

高橋●現在は大学の卒業証書が社会へ出るための通行手形化していて、三年次の終わりに頃になるとみんな就職活動に追われた。個人的には、何か味気ない思いがしています。

大津●私たちの頃は、神学を勉強するということが何がしかの決意があつたし、目標がありましたよね。われわれが社会の矛盾に立ち向かつて、何とかしようという思いも強かつた。同級生にも面白い人たちがいて、牧師になろうと頑張っていた人もいたし、後に弁護士になった人や筑波大学の教員になった人もいたりして、それぞれが自分の信念を持っていた。また先輩の中には釜ヶ崎の問題に関わっていた人もいたし、京都でしたら東九条の問題、またアジアの問題に関わっていた人もいました。当時議論し合うこともありました。互いを認め合っていたし、共通するものも多かった。新島襄を尊敬して、みな同志社を愛していましたね。

高橋●同じ志を持つ人がそれぞれの道で行動されていた。しかも、キャンパスでそれぞれの生き方や考え方を分かち合いながら……。

大津●そうですね。学生時代はとにかく純粹です。今振り返ってみても、当時考えたことはそんなに間違っていないと思います。逆に社会に出るといろんな利害関係に左右されることが多くなり、判断を曇らせてしまいます。ですから学生時代は、本にかじりついて勉強するだけでなく、実践の中から学ん



で欲しいし、いろんな人との出会いを経験して欲しい。そしてそこで考えたことを大切に、社会人になっても、間違っていないことはつきり間違っていないと言える人間になって欲しいですね。それからこれは身をもって経験したことです。が、語学、とくに英語はしっかり習得しておくべきですね。私も学生時代は国内で活動するのに外国語なんて……と馬鹿にしていた面もあったし、心と心が通じ合えば言葉の壁は乗り越えられると考えていましたが、現実には直面してみるとやはり言葉は大切です。外国の人と出会うことは当たり前のことになっていきますし、何かをしようにする場合、国内だけでなくまわられることが非常に少なくなっている昨今ですから。

高橋●先輩方の文章を読んで、大津さんの世代の考え方や行動力を知っているつもりでしたが、実際に会ってお話を伺い、とてもいい勉強になりました。私は四年生ですが、すぐには就職を考えず、自分のテーマを追いかけてみる勇気が湧いてきたような気がします。今日は本当に有難うございました。

INTERVIEWER

クリスチャンの両親の下で育つ。長崎の活水高校から神学部に進み改めて自分の信仰について考える。ユダヤ民族史に強い関心を寄せ、現在は、蒲生教会（日本キリスト教団）に通いながら、会衆の礼拝参加度ができるだけ高くなるような礼拝式文を制作するなどエキュメニカル運動（※）を自分たちなりに実践。現在、教会活動が彼女の生き甲斐になっているという。昨年、基督教団体連盟「ハンドベルクワイア」の部長を務めた。

※「エキュメニカル」：教派、教会の違いを超えて連帯を強め、宣教活動を行っていることとする運動、または考え方。



高橋 恵子さん
【神学部】 4年次生

神学部生として生き方、学ぶ姿勢を改めて教えられた気がします。

以前から、神学を学ぶ先輩たちの話を聞けば自分なりの生き方も探っていけるのではないかと考えていましたが、今日のお話を聞き、大津さんもまたそうだったのだと知りうれしく思いました。大津さんの場合は、新島襄であり、内村鑑三であり、そして労働者伝道を積極的に実践した先輩たちでした。大津さんの同世代の方々が、その後さまざまな分野で活躍、今日のNGOの中心的な役割を果たしていることを聞き、大津さんたちの精神を受け継いでいかねばと思うとともに、自分の信念、考えている生き方を大切にしていこうとの思いを新たにしました。

日仏の新しいかけ橋

一九九八年秋から本学工学研究科とフランスのリール中央学院との間でDouble Degree制度がスタートした。今回はその最初の交換留学生となった南川さん（本学工学研究科）とモーコールさん（リール中央学院）の留学体験談を紹介する。



南川 亜由美さん

【工学研究科博士課程（前期）】
2年次生

中学時代をカナダのトロント近郊で過ごす。第二外国語でフランス語を履修していたことから、フランスへの留学を志望。外資系機械メーカーへの就職が内定しており、将来は日本とアメリカ、あるいはフランスをつなぐ仕事をしてみたいという。

フランス流の生活リズムが気に入りました

私はリール中央学院とのDouble Degree協定締結後の最初の交換留学生ということですが、以前にもすでに二人の先輩たちがリール中央学院へ留学していることもあり、比較的気負いを感じることなくフランスに旅立つことができました。ところが、新学期が始まるとたちまち大きな壁にぶつかりました。研究発表は英語でいいと聞いていたのに、「フランス語で」といわれてしまったのです。「話が違おう」とくやんでも後の祭り。その日からフランス語との格闘が始まりました。単語帳をつくり、日常会話もすべてフランス語ですませるよう努めました。よくしたものでフランス語に慣れるにつれて、フランス流の生活リズムも板についてきました。早朝から活動



迫感に最初は戸惑いましたが、フランス人とはとても時間を大切にしているなあという印象を持ちました。帰国後、日本の生活リズムにもどってみて、その印象はさらに強まりました。日本では一日が勉強だけ、あるいは仕事だけで終わってしまいかねない。朝は少しづらくても、私にはフランス流の時間の過ごし方が合っているようです。

日仏で異なるキャンパスの風景

パリからフランスの新幹線TGVで約一時間、フランスの北東部、ベルギーとの国境に近い小さな工業都市にあるリール中央学院を卒業し、昨年秋季に同志社大学工学研究科に入学しました。古都京都のきらびやかな祭りも体験できたし、田辺での生活も快適でした。とくに留学当初驚かされたのが、キャンパス内に食堂や書店などが堂々と店を構えていることです。これはフランスでは決して考えられない光景。学内での商売は、フランスではまずご法度なのです。でも私はとても気に入りました。昼休みには和食はもちろん、洋食、中華料理とバラエティに富んだ食事が楽しめるし、街に出なくても書籍が購入できるので。それから、ただ昼休みの時間が少し短い。せうかくの食事でも一時間では堪能できないし、友人たちとゆつくり会話を楽しむこともできませんね。日仏の文化の差異、あるいはビジネスの違いが話題にのびりますが、大学とそこで学ぶ学生のスタイルにも違いがあつて面白い。留学は、郷に入れば郷に従うていろんなことを体験すれば得るものも大きいようです。



ヴァンサン・モーコールさん
Vincent Maucorps

パリ生まれのパリ育ち。1998年リール中央学院修了後、同志社大学工学研究科に留学。専門は電磁波で、帰国後は医療機器分野のエンジニアとして職に就く予定。

※Double Degree制度：この制度を利用してリール中央学院に留学し、定められた審査基準を満たした大学院生は、本学大学院修了時に、双方の大学の修士学位が取得できる。

1998
年度

大学決算について

財務部 経理課

1998年度大学決算は、5月20日開催の大学予算委員会および大学評議会、
5月29日開催の法人理事会において承認されました。

収入の部

学生生徒等納付金は221億円で、収入総額に占める割合は75%となります。

手数料は12億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は2億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、教育研究基金宛寄付金および機器備品・図書等の現物寄付金などです。

補助金は27億円で、国庫補助金が主なものですが、そのうち経常費補助金一般補助において配分基準の配点低下などによる減額があるものの、これを上回る特別補助の増額およびマルチメディア整備事業ならびに研究設備補助金の追加申請などにより予算額を3億円上回りました。

資産運用収入は7億円で、基本金引当資産の運用収入および預金等の受取利息・配当金などです。

事業収入は1億円で、企業からの委託研究費などの受託事業収入が主なものです。

雑収入は7億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

分担金は2億円で、法人業務に対する法人内諸学校の負担分です。

固定資産除却額は4億円で、当年度除却固定資産に係る取得価額です。

借入金等収入は10億円で、当年度建設事業に対する借入額です。

収入の部合計は、使途特定の特定支出準備金取崩額を加えて295億円となり、補助金の増額などにより予算に対して5億円の増収となりました。

支出の部

人件費は133億円で、支出合計に占める割合は48%となります。

教育研究経費は78億円で、大学の経常的な教育研究活動に要した経費です。主に研究費および実験実習費、委託研究費の予算繰越による未執行残、光熱水費の節減および料金単価改正による執行残などにより、予算額を3億円下回りました。

管理経費は9億円で、大学の維持管理に要した経費です。主に経費の節減による執行残により予算額を下回りました。

施設関係支出は10億円で、田辺別館および多目的ホールの増改築、講武館小教室整備、有徳館実験室整備などの施設整備事業が主なものです。

設備関係支出は12億円で、教育研究用機器備品・図書など固定資産の取得によるものです。なお、予算計上後の補助金対象事業の追加申請により執行額が予算額を上回りました。

借入金等返済支出は6億円で、過年度建設事業に係る借入金の返済額です。私学事業団借入金については償還計画にもとづき予算計上どおり返済をおこなっています。なお、市中銀行借入金については、自己資金を留保するため計画にもとづき当期の返済を繰延べています。

第2号基本金組入額は、組入計画にもとづき、教学施設整備資金10億円、研究装置設備等整備資金2億円、情報基盤整備資金1億円の合計13億円を組入れています。

第3号基本金組入額は、組入計画にもとづき、同志社大学奨学基金に5億円を組入れたほか、学部教学充実基金・学術奨励基金および特別寄付金ならびに基金果実の使用残額など合計6億円を組入れています。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計画にもとづき減額調整をしています。

支出の部合計は、使途特定の特定支出準備金繰入額を加えて273億円となり、経費の執行残および予備費の未執行などにより予算に対し4億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度収支差額は22億円の収入超過となりました。これは新たな研究科、学部・学科などの設置経費に係る自己資金を留保するため当期の建設事業費をすべて借入金により賄い、さらに当期の借入金返済を繰延べたことによるものです。

累積収支差額としては、翌年度以降の消費支出に充てるための消費支出準備金繰入後の収入超過額8億円により一時的に改善され、翌年度に152億円の消費支出超過額を繰越すことになりました。

借入金

借入金残高は、借入金返済による6億円の減少があるものの、当年度建設事業に係る新規借入金による10億円の増加により、前年度末に対し4億円増加し当年度末の借入金残高は118億円となりました。

累積赤字

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額であります。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

なお、この自己資金の不足額は前年度末の275億円に対して、当年度末は270億円となり、5億円減少しました。

■1998年度 収支計算書

1998(平成10)年4月1日から1999(平成11)年3月31日まで

(単位：千円)

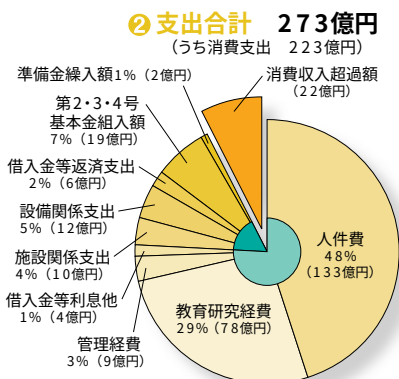
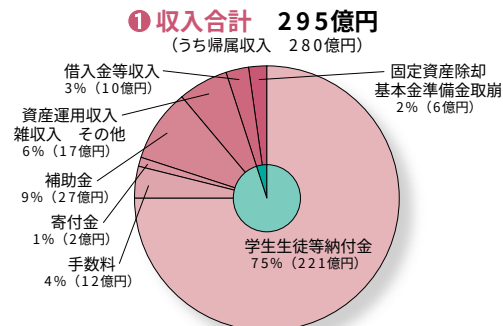
収 入 の 部				
科 目	予 算	決 算	差	異
学生生徒等納付金	22,123,590	22,156,699	△ 33,109	
手数料	1,184,000	1,229,706	△ 45,706	
寄付金	137,970	183,711	△ 45,741	
補助金	2,340,420	2,674,642	△ 334,222	
資産運用収入	610,130	664,807	△ 54,677	
資産売却差額	16,540	18,132	△ 1,592	
事業収入	95,160	106,214	△ 11,054	
雑収入	749,750	743,591	6,159	
繰出金	8,650	8,853	△ 203	
分担金	171,500	171,500	0	
帰属収入合計	(27,437,710)	(27,957,855)	(△ 520,145)	
当年度固定資産除却額	405,500	408,490	△ 2,990	
第2号基本金取崩額	100,000	100,000	0	
前年度基本金組入額繰延額	5,930	5,933	△ 3	
借入金等収入	990,000	987,200	2,800	
当期末未払金	0	22,717	△ 22,717	
基本金過年度組入額、未組入額合計	(1,501,430)	(1,524,340)	(△ 22,910)	
特定支出準備金取崩額	68,690	46,904	21,786	
収入の部合計	[29,007,830]	[29,529,099]	[△ 521,269]	

支 出 の 部				
科 目	予 算	決 算	差	異
人件費	13,347,300	13,250,976	96,324	
教育研究経費	8,150,180	7,805,816	344,364	
消耗品費他	5,629,760	5,284,555	345,205	
減価償却額	2,520,420	2,521,261	△ 841	
管理経費	919,430	858,498	60,932	
消耗品費他	833,020	772,927	60,093	
減価償却額	86,410	85,571	839	
借入金等利息	329,300	317,862	11,438	
資産処分差額	10,220	15,675	△ 5,455	
徴収不能引当金繰入額	49,100	30,136	18,964	
徴収不能額	0	740	△ 740	
繰入金	0	9,372	△ 9,372	
予備費	100,000	—	100,000	
消費支出合計	(22,905,530)	(22,289,075)	(616,455)	
施設関係支出	966,240	954,939	11,301	
設備関係支出	1,198,410	1,247,338	△ 48,928	
固定資産受贈額	0	30,020	△ 30,020	
翌年度基本金組入額繰延額	10,840	9,021	1,819	
借入金等返済支出	631,710	632,807	△ 1,097	
前期末未払金	0	193	△ 193	
第2号基本金組入額	1,300,000	1,300,000	0	
第3号基本金組入額	633,580	640,580	△ 7,000	
第4号基本金組入額	△ 1,200	△ 1,200	0	
基本金要組入額合計	(4,739,580)	(4,813,698)	(△ 74,118)	
特定支出準備金繰入額	35,420	176,631	△ 141,211	
支出の部合計	[27,680,530]	[27,279,404]	[401,126]	

収 支 差 額				
科 目	予 算	決 算	差	異
当年度消費収入超過額	(1,327,300)	(2,249,695)	—	
消費支出準備金繰入額	△ 525,630	△ 1,418,730	—	
繰入調整後消費収入超過額	[801,670]	[830,965]	—	
前年度繰越消費支出超過額	[△ 16,021,490]	[△ 16,021,494]	—	
翌年度繰越消費支出超過額	[△ 15,219,820]	[△ 15,190,529]	—	

借 入 金				
科 目	予 算	決 算	差	異
前年度未借入金残高	[△ 11,480,950]	[△ 11,480,946]	—	
当年度借入額	△ 990,000	△ 987,200	—	
当年度返済額	631,710	632,807	—	
当年度未借入金残高	[△ 11,839,240]	[△ 11,835,339]	—	

■収支構成図



消費収入超過額 (① - ②) 22億円

用語解説

●収支計算書

学校法人会計基準にもとづく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが『収支計算書』です。

●基本金

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

同大生の

生活

経済学部
「馬場 浩也ゼミ」
3年次生

白書

私たち、経済学部馬場ゼミでは「労働経済」を研究していますが、それに加えて、経済分析に必要な統計学やコンピュータを使った計量分析なども学んでいます。ここでは、そうした活動の中から、昨年末に田辺キャンパスの1、2年次生200人を対象に行ったアンケートにもとづき、同大生の学業と生活に関する調査結果の一部を報告します。

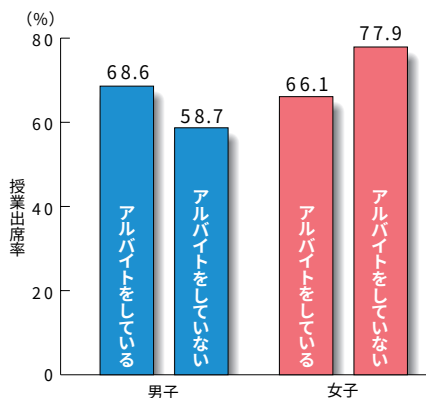
バイト・クラブ・恋愛 VS 学業

「最近の学生はアルバイト、クラブ活動、恋愛にばかり精を出して、授業に出席しない」という批判をよく聞きます。そこで私たちは、学生生活の中心であるアルバイト、クラブ・サークル活動、恋愛と授業出席率(登録単

クラブ活動
学生が授業に出席しないのは
アルバイト、クラブ活動、
恋愛のせいかな？

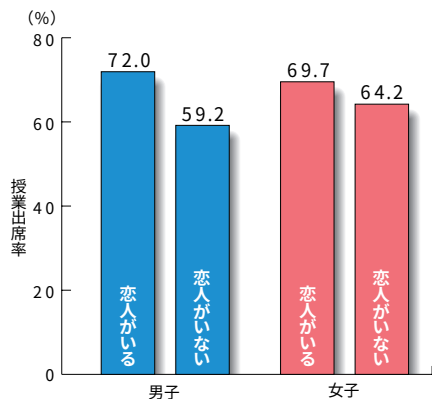


また、図2に示したように、クラブ活動と授業出席率の関係では、予想通り、体育会系の学生は練習や試合のせいもあるが授業出席率が低いですが、その次に授業出席率の低いのはクラブ・サークルに「入っていない」学生です。一方、文化系クラブ・サークルに「入っている」学生の授業出席率は相対的に高いです。次に、図3では、恋愛と授業出席率の関係を恋人が「いる」学生と「いない」学生で比較しています。ここでも一般の予想とは逆に、恋人の「いる」学生の方が「いない」学生より授業出席率が高いことがわかります。これら

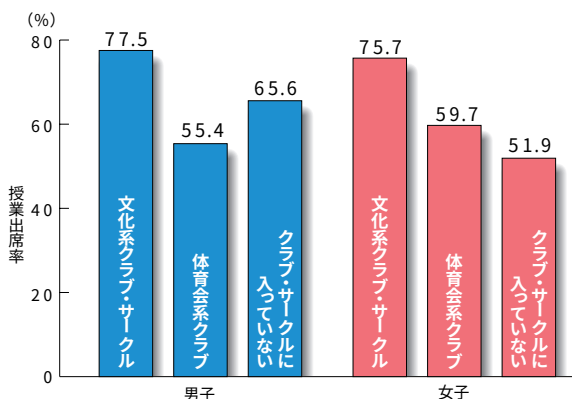


位の何%の授業に出席しているかの関係を調べてみました。その結果、意外な事実が判明しました。
まず、図1に見られるように、アルバイトと授業出席率の関係では、確かに女子はアルバイトを「している」学生の方が「していない」学生より授業出席率が低いですが、男子の場合はむしろ逆になっています。

【 図1 】 アルバイトと授業出席率



【 図3 】 恋愛と授業出席率



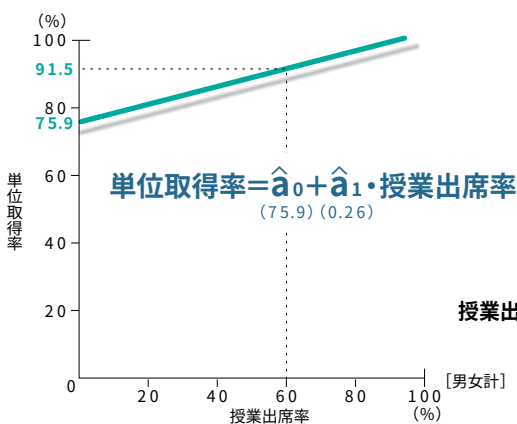
【 図2 】 クラブ・サークル活動と授業出席率

の結果からすれば、学生が授業に出席しないのは必ずしもアルバイト、クラブ活動、恋愛のせいだとはいえないようです。

私たちの分析結果は非常に興味深いものです。まず図4に示した授業出席率と単位取得率の関係における $\hat{a}_0$ は、一回も授業に出席しない場合に取得できる単位率を示し、 $\hat{a}_1$ は授業出席率が1%増えれば単位取得率が何%増えるかを示します。それらによると、男女共に、一回も授業に出席しなくても登録単位数の約七六%の単位を取得することができることになります。また、これまで見たように、多くの学生は授業の六割程度しか出席していないわけですが、その場合で

しかしやはり気になるのは、全体としての授業出席率の低さです。多くの学生が授業の六割程度しか出席していないのです。そんなことで単位取得や成績や卒業は大丈夫なのでしょうか？
そこで私たちは、授業出席率と単位取得率（これまで登録した単位の何%を取得したか、および授業出席率と総合平均点の関係を回帰分析と呼ばれる方法で調べて見ました。この方法を用いると、授業出席率が1%増加すると単位取得率や総合平均点がどの位増加するかがわかります。

クラブ活動
学生が授業に出席しない
本当の理由
アルバイト



【 図4 】
授業出席率と単位取得率



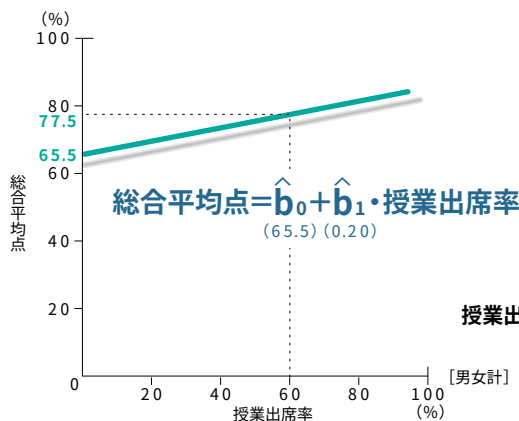
も、単位取得率は $\hat{a}_0 + \hat{a}_1 \times 60$ となり、登録単位数の約九〇％を取得することができます。

この数値を現実に応じてはめてみましょう。たとえば経済学部ではほとんどの学生がフルで単位登録しますから、四年間で一八二単位登録できて、そのうちの一二四単位、つまり登録単位数の約七四％を取得すれば卒業できます。とすれば、さきほどの計算でいけば、一回も授業に出席しなくても単位的にはぎりぎり卒業できることになります。また、もし仮に一年次生から三年次生までの授業の六割に出席すれば、その間の総登録単位数（一二三単位の九〇％、つまり一一八単位）を取得できて、残りは僅かに十数単位ですから、四年次生ではほとんど授業に出席しなくても卒業できることになります。これは経済学部の現状とびつたり一致します。

次に、図5に示した授業出席率と総合平均点の関係における $\hat{a}_0$ は、一回も授業に出席しなくても得られる総合平均点を示し、 $\hat{a}_1$ は授業出席率が一％増えれば総合平均点が何点増えるかを示します。それによると、一回も授業に出席しなくても、少なくとも

も六五点以上の総合平均点が得られます。また、仮に授業の六割に出席すれば七〇点台の総合平均点を得ることができます。これらを総合すると、現在の大学の教育制度では、少なくとも平均的には、学生は授業の六割程度にさえ出席しておけば、そこそこの成績も取れるし、単位も余裕で卒業できることになります。これでは学生が授業に出席しないのも無理はないと言わざるをえません。私たちの調査は経済学部だけではなく、全学部を対象としたものですから、この問題は同志社大学全体の問題ともいえそうです。

も六五点以上の総合平均点が得られます。また、仮に授業の六割に出席すれば七〇点台の総合平均点を得ることができます。これらを総合すると、現在の大学の教育制度では、少なくとも平均的には、学生は授業の六割程度にさえ出席しておけば、そこそこの成績も取れるし、単位も余裕で卒業できることになります。これでは学生が授業に出席しないのも無理はないと言わざるをえません。私たちの調査は経済学部だけではなく、全学部を対象としたものですから、この問題は同志社大学全体の問題ともいえそうです。



【 図 5 】
授業出席率と総合平均点

最後に、私たちの調査結果をまとめます。まず、「学生が授業に出席しないのはアルバイト、クラブ活動、恋愛のせい」という批判は間違っていました。調査結果によれば、むしろアルバイト、クラブ活動、恋愛などの学生生活を積極的にエンジョイしている学生の方がそうでない学生より授業出席率が高いのです。しかし、このことを逆にとらえると、同志社のようなマンモス大学にはそうした大学生のライフスタイルについて行けず、学校にも来ず、授業にも出席しない学生が多数いることを示しているといえます。そうした学生の疎外感を取り除き、積極的に大学生活に参加させるには、学生に対するよりキメの細かいケアが必要だと思われれます。

また、授業に出席しないのを学生だけのせいにするのも間違っていました。調査結果からすれば、学生が授業に出席しないのは、授業に出席しなくても単位も取れるし卒業もできるという、大学教育の現実があるからです。「大学の遊戯場化」や「学力低下」の原因は学生だけではなく、そうした現在の大学の教育制度にもあることを私たちの調査結果は示しているようです。

まとも
アバウト

CAMPUS NEWS 2

CAMPUS NEWS ●●●

田辺キャンパス 骨密度測定結果 —あなたの骨は大丈夫？

昨年に引き続き今年も5月17日～21日、田辺保健所により学生を対象とした「骨密度測定」が田辺キャンパスで行われた。かなり高額な受診料が無料ということもあって、今年も学生には好評であった。定員オーバーのため希望者全員が受診することはできなかったが、336人（男子161人、女子175人）の受診者があった。

なかでも女子は骨密度の分類で注意・境界域の学生が約30%にのぼり、注意が必要とのことである。

また、精密検査を受診した学生のうち14人が1年以後に精密検査を再受診し、経過をみる必要があるとの医師の診断であった。

その他、受診者の食習慣などについての聞き取り調査結果は、以下の通りである。

- ① 朝食抜き、または取っていても内容が簡単なもので済ませている
- ② カルシウムの吸収が一番良いとされている牛乳・乳製品を摂取している者が少ない
- ③ カルシウムを多く含む食品（小魚・大豆・海草・緑黄野菜等）の摂取量は、基準値以下であった



④ 運動習慣は、当然ながら運動を継続している者の検査結果の方が良い

以上のような結果は、現在ではなく高校時代までの生活習慣が大きく反映されているといえる。現在の大学生活でのカルシウム不足や運動不足傾向の現状から勘案するとこれからの生活習慣の改善が大切になる。

田辺保健所からは、(1) 牛乳・乳製品は毎日1回取る（例：牛乳なら200cc、ヨーグルトなら1.5個）(2) できるだけ歩くことから始めてみてはとのアドバイスがあった。

CAMPUS NEWS ●●●

日本育英会きぼう21プラン 奨学金募集結果(春学期分)

本年4月よりスタートした日本育英会きぼう21プラン奨学金（利子付き）は従来の第二種奨学金に比べて大幅に収入基準や成績条件が緩和されました。春期の募集については有資格の希望者全員が採用されています。

1 年 次 生	462人
2 年 次 生 上	311人
大学院生(前期)	82人

次年度に日本育英会に出願を希望する人には、2000年3月下旬に「奨学金出願のしおり」を配布予定です。

なお主たる家計支持者の解雇、死亡、離別、破産、病気、事故、会社倒産および申込者の世帯に火災、風水害、震災による著しい被害で家計急変がおこった場合は日本育英会緊急・応急採用を随時受け付けますのでお問い合わせください。

(厚生課奨学係)

CAMPUS NEWS ●●●

留学生別科生が、日本の伝統文化「華道」に触れる。

7月3日、本学で学ぶ留学生別科生が別科課外行事の一環として「華道」を体験した。池坊学園の協力を得て開講された当行事は、生け花の実習を通して日本の伝統文化の一端に触れることを目的としたもの。大雨警報が出る中、受講した留学生たちは、まず「華道」の心を紹介したビデオを見た後、三代佐智子 池坊文化学院講師の指導のもと、実際に生け花に挑戦した。

母国には生け花に似た文化があるというタイからの留学生 スプラニー・タムマチョーティ (Supranee Thammachoti) さんは、さすがに手慣れた様子で生けていく。一方、日本の伝統文化が大好きだというオーストラリアからの交換留学生 ヘザー・クラーク (Heather Clarke) さんは「生け花は何度か見て素敵だなと思っていたけど、実際に自分で生けるのは初めてです」と目を輝かせていた。花のはかなさ、命の大切さを、一瞬の美の中に再現する「華道」の神髄を心に留めながら、どちらかといえば奔放に生けた作品は最後に床の間に並べられ、互いに批評しながら楽しい時を過ごした。



CAMPUS NEWS ●●●

経済学部学生が人命を救助 —感謝状を贈られる

6月30日午前10時すぎ、田辺校地駐輪場南側の普賢寺川で地元の57歳の男性が4トントラックごと川に転落。左足を骨折し自力で川から上がれなくなり、川岸につかまっているところを滝澤正樹さん(経済学部2年次生)が発見。対岸から川を泳ぎ渡り、この男性の体が流されないように食い止めた。普賢寺川は前日の大雨により大幅に増水し濁流と化しており、水深も1.5メートル以上になっていた。別の学生の通報により救急車が到着するまでの間、滝澤さんはこの男性を川の中で支え続けた。男性はこの後無事救助され病院に収容された。人命救助により、7月14日、京田辺市消防長より感謝状を贈られた滝澤さんは、「人が流されそうになっていたので、考えるよりも先に行動していました。自分では大したことをしたとは思っていません」と語っていた。

CAMPUS NEWS ●●●

派遣留学生の募集

2000-2001年度の外国協定大学への留学受付を、次の日程で行います。希望者は両校地国際課で手続きを行ってください。

なお、国際課では「外国留学要項」を配布中です。

出願期間 1999年10月12日(火)～18日(月)<B日程>

問い合わせ先 国際センター国際課

今出川 TEL.075(251)3260

田 辺 TEL.0774(65)7066

CAMPUS NEWS ●●●

アッセンブリーアワー

と き: 10月27日(水) 15時～

ところ: 神学館礼拝堂(今出川校地)

テーマ: 「寄生虫とヒトの共生」—清潔すぎる日本人

講師: 藤田紘一郎(東京医科歯科大学医学部教授)

CAMPUS NEWS ●●●

日本ラグビー100周年 「'99日英大学ラグビー対抗戦」 ケンブリッジ大学を相手に 全同志社健闘！



今年は、日本にラグビーが伝えられてちょうど100年という記念すべき年にあたる。今回は、日本にラグビーを伝えたエドワード・クラーク氏の母校ケンブリッジ大学を迎え「'99日英大学ラグビー対抗戦」が行われ、第2戦には本学卒業生と学生の混成チーム、全同志社と対戦した。

試合は、大阪の長居第2陸上競技場で9月8日午後7時キックオフ。ケンブリッジ大学がトライを先取、全同志社がこれを追いかける一進一退の展開となった。前半は21対14と全同志社リードで終えたが、後半ノーサイド寸前にトライを許し、惜敗した。ワールドカップ戦を控え、OBは3人のみという学生中心の布陣で挑んだだけに今後に期待を抱かせる結果となった。

川寄拓生（工学部4年次生）主将も「夏合宿で練習したセットプレーの課題が解消されていない。しかし、チーム力は確実に上向いており、今年の大学選手権で優勝を狙える力を備えてきた。選手たちの士気も次第に高まってきています」とコメント。今シーズンは例年以上の結果が期待できそうだ。

◆'99日英大学ラグビー対抗戦

全同志社 対 ケンブリッジ大学 33対40
(9月8日 長居第2陸上競技場)



CAMPUS NEWS ●●●

ラーネッド記念 図書館の 日曜開館に ついて



今出川校地図書館は昨年秋学期より開講期間・試験期間の日曜日に会館してきました。今年度、田辺校地ラーネッド記念図書館につきましても、日曜日の開館を7月から行っています。

- 1) 開館時間：10:00～17:00
- 2) 開 室：開架閲覧室、参考図書・雑誌室
- 3) サービス：資料閲覧とコピー
貸出図書の返却
- 4) 開 館 日：開講期間・試験期間
の日曜日
10月3・10・17・24・31日
11月7・14・21日
12月5・12・19・26日
2000年 1月9・16・23・30日
2月6・13日

個人と集団と

藤澤義彦（商学部教授）

中学・高校・大学と同志社で学び、その後大阪体育大学、フランス国立スポーツ体育研究所留學を経て一九八八年同志社大学に入社。専門は体育方法、測定評価、フエンシング競技の国際的な競技力向上の方策を研究。最近の論文は「フエンシング競技選手」の体格・体力「フエンシングの基本技術の正確性とフエンシング選手の資質について」フエンシング日本代表チーム指導者として、一九八四年ロタンゼルスオリンピック、一九八九年、一九九二年バルセロナ大会監督、一九九四年世界ジュニア選手権大会監督などを歴任。

今年の六月、Jリーグの有名選手が、ナショナルチームから引退されたことがあった。理由は、門限を破って女性と食事をしていたためである。ある週刊誌には、「プロなのだから結果を出せばそれでいいのだ。ポイスカワ的なルールは必要ない」という記事が載っていた。私自身、フエンシングではあるがナショナルチームの監督やコーチを務めた経験上この記事には少々疑問を持つ。練習中や試合前のスケジュールは、選手の健康状態や試合開始時間等をみて決めるものである。あくまでも、選手が最高の状態で試合に臨めるようにコンディショニングを整えるのが普通である。とはいえ、選手の中には監督が決めたスケジュールではやっていけないという選手もいるかもしれない。このサッカード選手のように、深夜友達と食事をするのが、彼にとって一番のリフレッシュ法なのかもしれない。しかし、習い睡眠不足のために身体が動かず、チームタイトとの練習がうまくいかない。それが数日後の試合に影響してしまう。たとえそれが数日後の試合に影響してしまわないとしても、指導者としては一番避けたい、イヤなものだが、指導者としては一番避けたい、イヤなもの



ミエ」なのである。本当なら選手自身のモラルが高ければ、この様なルールは必要ないのである。個人のミエが、全体に関わる大きなミエにつながる場合が多々ある。このあたりの認識が、最近低下しているように思えて仕方がない。欧米のチームはこの点には特に厳しく、自己管理の出来ないモラルの低い選手は、即チムから追い出される。そのような状況を何度目にもしている。

「数年前大学生を含めた若者の行動パターンをみてみると、完全に集団から個人へと変化したように思われる。しかし、日本人の行動パターンが本来に欧米的に変化したかという若手疑問である。我が国で個人主義的なイメージが強いとされている国にフランスがある。しかし、フランスの個人主義は、あくまでも幼児期の徹底した集団生活により身に付けられたモノであるように思われる。フランスの子供たちがよく参加するものに、コロニー・ド・ヴァカンス(Colonie de Vacances)がある。これは、日本流に言えば林間(臨海)学校にあたる。ここでは、子供たちがリーダーの若者たちの指示に従って共同生活を行っている。これだけなら日本と何ら変わらないように思われるが、その内容は非常に厳しい。特に何に厳しいかというと「集団での行動」についてである。タタをきねたりして、集団の秩序を乱すような行動をとるとリーダーから手厳しく叱られる。このような集団生活を子供の頃から繰り返して体験することにより、「人に迷惑をかける」個人主義の本質を習得するのである。

フランスの指導書の中に、基本的な技術・戦術を身に付けた後、次に行うことは「モラルの向上である」という箇所がある。個人主義とは決して利己主義ではないのである。

四十にして惑う

稲本健二〔言語文化教育研究センター教授〕

一九五五年大阪生まれ 大阪外国語大学イスパニア語卒業 同大学院修士課程修了。天理大学、摂南大学を経て一九九八年同志社大学入社。専門はスペイン文学、特にロペ・デ・ベガを中心とする古典劇の文献学的研究。最近ではスペイン現代文学の紹介にも努める。

常々思っているのだが、最近どうにも困っていることがある。それは年齢のことだ。何も自分の老化を嘆いているのではない。いや、それも少しあるがそれよりも気になるのは学生との年齢差である。

大学の教員はいつも二十歳前後の若者と接触している。いくら教歴を積みんでも、学生の年齢は永遠に変わらない。一方、自分は確実に年を取っていく。その結果、徐々に学生との年齢差が広がっていく。気が付くと、親子ほどにも年が離れているという現実と直面するのである。

私も初めて大学の教壇に立ったときは、若千二十六歳の青年だった。就職活動をしていた四年生とても四歳しか違わない。自ずと先輩のような存在で学生と一緒に過ごしていた。懐かしい思い出である。学生の方もそれで特に違和感を感じていない様子ではなかったように思う。ところが、既に教歴十八年目に突入し、自分と二回りも歳が違う学生がキャンパスを軽やかに駆け回っている姿を眼にすると、月並みな表現だがある種の感慨を禁じ得ない。



先日も講義中に学生たちの反応に驚かされた「失敬だ」と言って反発するのから思っていたら、何と深く感心して「それはいいことを教えてもらった」と喜んだのである。その時の話題は△元服Vであった「人生わずか五十坪」と舞い踊った信長の時代、人は十五歳で大人と見なされた。今では二十歳で成人となる。お酒も飲めるし、タバコも吸える。これらが大人のたしなみとされる由縁である。しかし、スペインではお酒は十六歳から許されている。文化が異なると事情も異なるのである。ならば、平均寿命八十歳を超え、高齢化社会になってきている現代では、成人と見なす年齢にも再考が必要ではないか。五十年の人生で十五歳の元服。この図式を八十年の人生に置き換え、比例配分してみると元服は二十四歳となる。つまり、大学生はまだ元服前の子供なのだ、という話の展開であった。怒るどころか感心している学生を見て、二十二歳で就職活動をして将来を決定するほどに疑問を抱かざるを得なかった。

学生とツーカー（正しくは、つうかあ）の関係でなくなりつつあるのは教師として問題である。折に触れて、年配の先生方に悩みを打ち明けて相談する。それぞれの先生がそれぞれに対処法をお持ちだった。解決策を一般化はできない。それに学生という相手がある話だ。つまりは自分で打開するしかない。こう考えて毎年四月に新たな気持ちで講義に臨むのだが、失敗も多い。孔子は論語の中で「四十にして惑わず」と言った。私の場合は逆に「四十にして惑う」である。いつそのツーカーと名の付く携帯電話でも買おうかと真剣に考えている今日の頃である。

『チャイナタウン』

監督：ローマン・ポランスキー

主演：ジャック・ニコルソン、ジョン・ヒューストン、フェイ・ダナウェイ

アメリカの映画評論家は、一九七〇年代の映画作品を振り返り、嘆きの声を上げることがよくある。振り返って見ると、七〇年代に作られた映画はハリウッドの主要スタジオによる真剣な映画作りの最期のあえぎを見たという風に思えるからだ。六〇年代の政治的・文化的熱情の余韻と、一九七二年から七四年にかけて起きたウォーターゲート事件の騒動のなかで、批判的・自省的精神が大規模なスタジオのプロダクションにさえも浸透し、芸術性や娯楽性とアメリカ社会への懐疑的な見方を併せ持つような映画が次々と誕生したのだ。あの頃の精神は、ほとんどの映画が夏休みのアメリカのティーンエイジャーという巨大な観客層を主なターゲットとして創出されている今日では、ほとんど見る影もない。

七〇年代半ばのそのような一連の映画の中でもっとも有名な作品の一つが『チャイナタウン』だ。監督はハリウッド出身のローマン・ポランスキー、脚本はハリウッドのもっとも才能ある脚本家 ロバート・タウンである。主演するのはジャ

ロサンゼルスを舞台とした 暗黒映画



ック・ニコルソンであり、三〇年代のロサンゼルスで、不義、殺人、そして都市の水源——政府の大規模な灌漑システムなくてはほとんど砂漠といつてもよい地域における最重要問題である——をめぐる陰謀に巻き込まれるロスの私立探偵の役で、長いキャリアのなかでも随一の演技を見せている。物語が進むにつれて深まるさまざまな謎の鍵を握る女性役のフェイ・ダナウェイの演技も素晴らしい。

『チャイナタウン』は、陰謀、サスペンス、ロマンスに加え、二十世紀初頭のアメリカにおける腐敗や権力への欲望に関する鋭い政治的論評が散りばめられているため、多くのレベルで楽しむことができる。その結果、一度見ると忘れられず心に残り、何度も見るに足る作品となっている。『チャイナタウン』は主演の俳優たちやポランスキー監督のキャリアの最盛期を見ることのできるまたとないチャンスを与えてくれるのである。

というわけで『ジュラシックパーク』や『アルマゲドン』のことは忘れよう！ハリウッドが本正当に優れた作品を作れるのを見るには『チャイナタウン』を見るのが一番なのだから。

先生の推薦する

Video

Taylor E. DARK

【アメリカ研究科助教授】

和泉真澄（アメリカ研究科博士課程（後期）三年次生）

『本学先生の新聞』

（寄附情報センター）

人間の情報処理における

聴覚言語イメージの果たす役割

井上智義 著 北大路書房 七、〇〇〇円

視聴覚メディアと教育方法

井上智義 著 北大路書房 二、四〇〇円

考古学に学ぶ——遺構と遺物——

（同志社大学考古学シリーズ）
松藤和人 ほか編 同志社大学考古学シリーズ刊行会

物権・担保物権法

田井義信 編 法律文化社 三、五〇〇円

国際人権法概論 [第2版]

畑博之 ほか編 安藤仁介 執筆
有信堂 三、〇〇〇円

民事救済手続法

井上治典 ほか編 佐藤鉄男 執筆
法律文化社 三、三〇〇円

倫理思想の世界

——古代より宗教改革まで——
川島秀一 編著 宮庄哲夫 執筆
晃洋書房 一、八〇〇円

まちづくりと地域共生

——学都市調査第2次報告書——
三沢謙一 編 渡辺武男 天木保美 執筆
同志社大学文学部社会学研究室

進化する人工物

三木光範 著 オーム社 一、四〇〇円

歴史のなかの現代

——西洋・アジア・日本——
中村勝己 編著 今関恒夫 執筆
ミネルヴァ書房 六、五〇〇円

注釈ドイツ約款規程法 [改訂普及版]

石田喜久夫 編 梶山玉香 執筆
同文館 四、八〇〇円

『凍れる心臓』

共同通信社社会部移植取材班編著
共同通信社 1998年
定価1,700円(税別)

「過去」から読み解く 移植医療の問題点

今年に入って、脳死者からの臓器移植が相次いで実施された。臓器移植法の制定から約二年わが国もようやく本格的な移植医療の時代を迎えようとしている。しかし、他方で、私たちの多くが、依然として脳死や臓器移植に漠然とした不安を抱き続けているのも事実である。移植医療が社会が受け入れつつある今、そうした不安の正体について、一度ゆっくり考えてみてはどうだろうか。

その際、一つの手がかりとなるのが本書である。本書は、一九六八年に行われたわが国最初の心臓移植手術(いわゆる「和田移植」)事件の実態を検証したルポルタージュの力作である。「本当に患者に心臓移植は必要だったのか」、「ドナー(臓器提供者)は、まだ生きていたのではないかなど、この事件は多くの疑惑を残した。事件から三十年後、当時の関係者に対する丹念な取材によって、そうした疑惑を解き明かし、事件の真相に迫る本書の読みこたえは十分で、それだけ

でも高い評価に値する。しかし、本書の真価は、そうした事実の解明にとどまらず、私たちに鋭く問いかけてくる点にこそある。「医療を信じ切るのか?」と。

本書が告発する和田移植事件の実態は深刻である。功を焦るエリート医師、医師に逆らえない患者やその家族、エリート医師の脱線をかばう医療関係者、こうした医療現場の問題点は、けっして「過去」だけのこととして片付けられない。医療関係者の探究心や好奇心が、脳死判定の客観性を奪ってしまうのではないかという懸念は、臓器移植法の制定をめぐる議論のなかで、脳死反対論者からたえず指摘されてきたからである。本書は、そうした懸念がけっして絵空事ことではないことを示している。

もちろん、これだけが脳死や臓器移植への不安の正体ではない。しかし、社会の医療不信が、わが国の移植医療の発展にとって大きな壁となってきたことは否めない。本書を通じて、どうすれば、その不信をぬぐい去れるのか、考えてみる意味は小さくないだろう。



先生の推薦する

Book

川崎 友巳

【法学部専任講師】

多文化主義のアメリカ

―揺らぐナショナル・アイデンティティ―

油井大二郎 ほか編 森孝一 執筆

東京大学出版会

三、八〇〇円

のびやかにたかる 新島襄と明治の書生

伊藤彌生 著 晃洋書房

二、〇〇〇円

エキサイティング刑法 総論

大谷實 ほか著 有斐閣

二、八〇〇円

アメリカの嘆き

―米文学史の中のヒューリタニズム―

宮脇俊文 ほか編著

林以知郎 執筆

三、五〇〇円

企業政策論と総合政策科学

太田進一 編著 中央経済社

三、六〇〇円

租税法要論

浅沼潤三郎 著 八千代出版

三、〇〇〇円

現代イギリスの基礎知識 ―英国は変化した

小野修 編著 田口哲也 押本年貢

二、〇〇〇円

近松の三百年

近松研究所十周年記念論文編集委員会 編

九、〇〇〇円

山田和人 執筆 和泉書院

九、〇〇〇円

正しく学ぶ先物経済

杉江雅彦 著 醍醐書房

二、九〇〇円

為替レートと対外不均衡の経済学

藤原秀夫 著 東洋経済新報社

三、〇〇〇円

社会福祉の思想と人間観

嶋田啓一郎 監修 小山隆 執筆

三、五〇〇円

理工系基礎微積分学

堀内龍太郎 川崎廣吉 浦部治一郎 著

一、九〇〇円

水準器 (The Spirit Level)

シェイマス・ヒーニー 著

培風社

坂本完春 ほか訳 国文社

経験と知識を広げて 新しい分野に 挑戦し続けていきたい。

私は、みなさんよくご存知のアルカリ乾電池の開発技術者です。一九九一年の入社です。かれこれ八年以上もアルカリ乾電池の仕事に携わっています。海外で生活した経験と英語力を生かし、海外工場と技術的な調整を行う商品開発部門を志望していたのですが、最初に配属されたのは私の意に反して研究部門。くる日もくる日も材料や性能実験に明け暮れる毎日でした。大学で有機化学系を専攻していた私にとって、電気化学系に属する乾電池の研究は畑違いです。外部との接触が少なくこともあって、ストレスのたまる日々が続きました。どうにもたまらなくなって上司に相談を持ちかけたのは三年目のこと。そのとき上司は、「転属は簡単かもしれないけど、とりあえず仕事をやり遂げてみる」と忠告してくれました。私も、何らかの実績を残してから、転属



を希望しようと思ひ直し、忠告に従うことにしました。今にして思えばとてもいい経験になったように思います。転属していれば、きっと中途半端な知識と経験を携えたまま次の部署へ移り、また不満をもらしていたかもしれません。ただ当初抱いていた私の夢は日増しに募り、新商品を開発し、その技術ノウハウを携えて海外工場へ赴き、現地従業員を生産が軌道にのるまで指導するという、より具体的な形をとるようになりました。結局四年目に開発部門に移り、米国アトランタにある現地工場で働く機会も得られ、願望もかなって十二分に達成感を味わうことができました。

仕事をやり遂げ帰国した後は、反動から少し虚脱感に襲われました。日々の仕事に追われながらも次の目標が見つからないまま過ごす毎日が続きました。そんな時、力になってくれたのが学生時代にともにテニスに明け暮れた友人たちでした。テニスを中心に生活が回っていた私にとって、隠し事なしに何でも話せる友人たちは貴重な財産です。職場も違い、暮らしの基盤は違っても年末と夏休みには顔を合わせ、テニスを楽しみながら今も近況を報告し合う仲。不景気な中で愚痴をこぼしながらも頑張っているみんなの話に私も随分励まされました。

その後変化を求める私の意を汲み取る転

属の辞令がおりました。開発から品質管理に移った私は責任者になり、海外工場への長期出張の機会も与えられ、違った意味でのやり甲斐が湧き上がってきました。そして自分への課題も増えてきました。もっと幅広い意味での知識と経験を身に付けたいと願うようにもなり、さまざまな人に出会い、話に耳を傾けて、物事を多角的に見られるようになれば開発技術者としてだけでなく、人間としてもひと回り大きくなれると考えはじめるようになりました。学生時代というのは、とにかく一般教養を疎んじがちですが、キヤリアップすればするほど、幅広い知識とグローバルな視野が求められます。学生時代にも積極果敢に挑戦するとともに、専門分野に固執することなく幅広い教養を身に付けて欲しいと思います。



小島 有理さん

【1991年工学部卒業】

松下電池工業株式会社勤務

松下電池工業株式会社に勤務する小島さんは、技術職として研究部門、開発部門を経て、現在品質管理部門に所属する。入社当初から、技術者として「モノづくり」に携わってきたが、今はむしろ許されるなら営業職についてみたいという。営業を経験すれば、アルカリ乾電池の川上から川下までが理解でき、将来はエンドユーザーのことが分かる技術者とし、開発に役立つはずだと話す。

PROFILE

My Life. 仕事

第5回

が仕事を通して見た「社会」とは？
ことの意義とは？

う先輩の声に耳を傾けながら、
生生活の現実を考える機会にしたいものです。

同志社大学を卒業して、早いもので二十四年がたちました。市電で通学し、下駄履きで授業を受けた日々が、今も懐かしく思い出されます。卒業後、私は大学で専攻していた社会福祉を職業として選択し、以来福祉一筋に歩んできました。当時は「福祉の仕事をしています」と答えると、決まって「立派ですね」とか「大変ですね」という言葉が返ってくる時代でした。職業としての福祉が今ほど確立されていなかったわけではなく、奉仕といった色彩をおびてイメージされたからでしょう。一般的に「学ぶ」ということと「働く」ということはイコールではないし、職業として福祉を選ぶことは、美辞麗句をもって語られるべきものでもありません。私が山梨県の職員として障害児施設に赴任した当時は、子供たちが一日一日つつがなく過ごしていけるように見守って

My Job
My Life

福祉という仕事を通して
自己の向上を
図ってきたように思う。

シリーズ

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎号「私と仕事」をテーマにお話を伺っていきます。

私と「仕事」

社会へ出てかれこれ？年。先輩たち
あるいは「生きる」

歩んだ道も経験もそれぞれ違

将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学



いくのが精一杯でした。今日のように一人ひとりに目を向け、この子にはどうしてあげるのがいいのではないかとといった発想も、それを実践する余裕もありませんでした。たださまざまなケースを体験し経験として生かすことで、より質の高い福祉サービスが提供できるのだと自覚するようになりました。その後、児童相談所・児童自立支援施設・身体障害者更生施設など、かなり意図的に職場を変え、県庁の生活保護担当という行政職も経験しました。生活保護には他法優先という考え方があり、さまざまな法の適用を検討し、どうしても救いの手を差し伸べられない場合に必要部分について生活保護の申請を行うものです。福祉の仕事にはそういう相互作用的な一面があり、福祉の共通理解として、あるケースについて担当者が「制度を知らなかったために適切なサービスが提供できなかった」というのでは、利用者に本当に申し訳ないと思うのです。

私が福祉現場での経験を積み重ねていく中で、国の社会福祉施策も大きな転換期を迎えようとしていました。具体的には福祉サービス量の量から質への転換が図られるとともに、利用者の自立支援、人権の尊重が福祉の基本に据えられるようになりました。平成七年には政府において「障害者プラン ノーマライゼーション七カ年戦略」が策定された経緯もありました。このような変革の時にあって、平成八年、私に専門官として厚生省に行かないかという話が持ち上がりました。私はすでに四十四歳になっていました。単身赴任、慣れない都会暮らし、高度な職務という三重苦を背負っての入省でした。現在の仕事は、障害福祉専門官として福祉サービスを利用している人の立場から福祉の現場と行政との橋渡しの役割を果たすことであると考えています。地方自治体の福祉施策の成功事例をみていると、つねに現場と行政が一体となつて進められています。地方から国の立場になり、自分の職責の重さに身の縮む思いがしますし、率直に言えば仕事のやり甲斐よりもその責任の大きさを痛感している毎日です。と同時に、厚生省へ来てから同志社大学をより身近に感じるようになりました。日々の仕事を通して学生時代に学んだ福祉の歴史や基本的な考え方を思い起こすからです。また京都に向いいたおりに、懐かしいキャンパスを歩き、「元氣」をもらっています。

PROFILE

定月さんは、社会福祉一筋に生きてきた24年間を振り返り、「結果として福祉の仕事が続けてこられたという方が正しい」という。肩肘はらず、前向きに「働く」気持ちを持ち続けてきた結果、今の自分があり、不規則な施設勤務を利用して、PTAの役員、スポーツ少年団の役員、自治会の役員をした経験が、人との関わり方、社会との関わり方という福祉の原点を教えてくれたと語る。また、ご長男が現在同志社大学に在学中。



定月 直樹さん

【1975年文学部社会科学科社会福祉学専攻卒業】
厚生省大臣官房 障害保健福祉部障害福祉課勤務

ANNOUNCEMENT

田辺校地の愛称募集!

同志社大学が田辺校舎を開校してはや13年になります。開校当時「田辺町」であったのが、1997年の市政施行により「京田辺市」となって、大学周辺の住環境も整備され、年を追うごとに一層大学の街らしくなってきました。

そこで、現在の田辺キャンパスにふさわしい愛称を学生のみなさん・教職員から募集することになりました。皆様のご応募をお待ちしております。募集要項は下記のとおりです。

- 用紙・サイズ 不問
学部・学科・氏名・学生IDと「愛称」をお書きください。
- 応募締切 1999年10月30日(土)
- 受付場所 田辺校地正門受付箱、今出川校地正門受付箱
Cyber学長室 (<http://www.doshisha.ac.jp/gakuchou/index.html>)
- お問い合わせ 総務部庶務課 TEL.075-251-3110
- 応募記入例

所属：文学部 英文学科 12990001
氏名：新島一郎
愛称：_____

What's on Thursdays=WOT(ワット!!)

毎週木曜日には「何かある…」とスタートしたWOTですが、春学期に引き続き、秋学期にも企画をしました。どうぞお気軽に大会館(今出川校地)に足を運んでください。

- 場所 同志社大会館(今出川校地) 入場無料
- 時間 16:45～[1回目] 19:00～[2回目]



これだけは見ておきたい!…世界に誇る日本映画史上9人の巨匠達

映画の教科書

～世界の映画人を瞳みさせた3大監督の3大傑作～

- 10月7日(木) 小津安二郎 「東京物語」(このみ1回上映は16:30～です)
- 10月14日(木) 溝口健二 「雨月物語」
- 10月21日(木) 成瀬巳喜男 「浮雲」

日本映画界最大の巨匠とその周囲

～映画における演出の美学～

- 10月28日(木) 黒沢明 「用心棒」
- 11月4日(木) 加藤泰 「沓掛時次郎～遊侠一匹」

日本映画史の時代と枠組みを越えて

～エネルギーに生きた二人の巨匠～

- 11月11日(木) 大島渚 「戦場のメリークリスマス」
- 11月18日(木) 今村昌平 「うなぎ」

巨匠とは個性のことである

～独自のスタイルを確立しようとする新しい巨匠達～

- 12月2日(木) 小栗康平 「泥の河」
- 12月9日(木) 北野武 「菊次郎の夏」

12月16日(木)

Christmas Concert (クリスマスコンサート)
18:30～詳細未定

全国の高校生に向けて、
同志社紹介を積極的にPRする
CD-ROMをつくることになりました!!



ディーディー マグマグ VOL.1

D.D.mugmag 創刊!!

あなたのありのままの 「一週間の暮らしぶり」を大募集!

コンテスト形式によるコンテンツの大募集!

あなたのありのままの「一週間の暮らしぶり」を書き記した原稿を応募してください。

応募方法 メール添付・郵送・持ち込みのいずれかの方法でご応募下さい。

応募先 宛先：同志社大学広報課CD-ROM制作係
住所：〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
E-mail: ji-koho@mail.doshisha.ac.jp
TEL: 075-251-3120

選考方法 広報課CD-ROM制作係による審査

作品採用者特典

最優秀賞	1名	100,000円
優秀賞	2名	各50,000円
採用者全員		各10,000円

・制作されたCD-ROMは応募者全員に支給(お1人1枚)

応募締切 1999年12月1日 18:00まで

備考 作品の著作権は同志社大学広報課に帰属します。

●詳しくは下記ホームページで●

<http://www.doshisha.ac.jp/seikatsu/info/index.html>

お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

ONE PURPOSE

同志社大学通信120号

1999年10月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080

E-mail ji-koho@mail.doshisha.ac.jp

